

## 球面投影法の名稱について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2011-08-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Jerme, Fisher D., 寺田, 貞治 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00005961">https://doi.org/10.14945/00005961</a>

## 球面投影法の名稱について

シカゴ大孝 D. Jerme Fisher  
*Jour Geol* Vol 61 P72 (1953) *Geol Notes* より

寺田貞治

ステレオ投影とノモン投影は1823年に Franz Neumann によつて結晶学に導入された。しかしながら、彼はこれらの名稱を用ひなかつた。これらの言葉は天文学者、製図者、航海者によつて、幾百年の間、直接投影（即ち、逆投影でない投影）を表わすために用いられてきた。他方、結晶学者は大体において逆投影（柱投影）として、これらの言葉を使つてきた。1887年に、Goldschmidt は直接投影型に對して「cyclography」と「enthygraphy」等という術語を用ひさせた。これらの術語は天文学、製図学、航海学、航空学に於ける言葉の、一般に知られた意味に反するため、同時に、結晶学的な使用に制限を加えるようになつてきたのである。

この小文の目的は構造地質学者の注意をこの争柄に向けることである。「ステレオ」と「ノモン」はその元來の意味に用いられるべきであると思う。そして、「逆ステレオ (versterographic)」と「反ノモン (antignomonic)」なる言葉を逆投影型にのべるために提案する。そうすれば、球面投影における柱の形は逆投影図に投影することが出来る。この新しい言葉を提案するに到つて経緯や理由の詳細については、既に発表した論文 (Fisher, 1952) に引用されてゐるのを参照されたい。一般に構造地質学者は、従来多くは直接投影型としてステレオ投影を用いてきた (Nevin 1949, pp. 396-397 及び Wallace 1950 参照)。筆者は各種の構造問題を解くのを簡単にするために、逆投影型を用いる事を勧告してきた。學者は今までは Goldschmidt の術語を使用してきたが、これらの術語の代りに、ここに提案した新しい呼び方を使う必要があると考えられる。

## [参考文献]

- Fisher, D. J. (1952) *Crysallographic projections nomenclature dilemma*: *Am Mineralogist*, Vol. 37, pp. 857-861
- Nevin, C. M. (1949) *Principles of structural geology*, 4th ed., New York, John Wiley & Sons, Inc.
- Wallace, R. E. (1950) *Determination of dip and strike by indirect observations in the field and from aerial photographs: a solution by stereographic projection*: *Jour. Geology*, vol 58, pp. 269-280.